

JCI

社団法人埼玉中央青年会議所

Junior Chamber International Saitama-Chuo

少子化対策リーフレット 子育てシンポジウム STOP少子化



少子化!?

20世紀から21世紀にかけて、
日本人は大きな変化を遂げてきました。
多くのものを手に入れましたが、多くのものを失い、
今も価値観の多様化や利便性を追い求め変化し続けています。
家族は国家の縮図でもあり、
家族の価値観はその大きな変化の一つであると考えます。
そこで様々な介在する少子化の原因を探究し、
地域社会での解決の糸口を展開できる取組みが必要です。

社団法人埼玉中央青年会議所で考える少子化対策

現在の子育ては、核家族や離婚の増大によるひとり親世帯が増加しています。また地域社会の中で、人間関係が希薄化し、互いの協力関係が弱くなる中で、身近な地域社会で相談相手や自分に代わって子どもを預けられる人がいないなど、子育てが孤立化し、つまり母親ひとりだけの「孤」育てとなっています。

そこで少子化対策委員会では、「孤」育てとなっている現状に対して、日本政府の物質的な対策ではなく、家族や地域社会の絆を再生するための精神的な対策が必要だと考えています。

その対策として「ありがとう」運動を推奨します。

「ありがとう」という言葉には、「感謝」の気持ちを表現する「最大の愛の言葉」として多くの意味が含まれています。家庭で「孤」育てしている母親に対して、その存在や行いへの感謝の気持ちを伝え、深い愛情と絆をより強固なものになり、夫婦で「子」育てをすることができます。また周囲の全ての人々へ「ありがとう」と素直に感謝の気持ちを表現することを実践することで、「人と人」「心と心」が触れ合う安定した地域(まち)をつくる第一歩となります。この「ありがとう」運動は、地域全体で子育てすることへの意識の変革を発信するものでもあります。

笑顔溢れる社会を目指して・・・

「あ」 … 「愛しあう気持ち」

目的：相手のことを大切に思える。

実践方法：

家庭では・・・「家族愛」をもって、家族のために生きる。

地域社会では・・・「地球愛」をもって、住みやすいまちづくりを心掛ける。

「り」 … 「理解しあう気持ち」

目的：相手の気持ちを受け止めることができる。

実践方法：

家庭では・・・相手の立場に立つ(協力する)。

地域社会では・・・環境などを共有する。

「が」 … 「感謝しあう気持ち」

目的：相手のことをより深く思いやることができる。

実践方法：

家庭では・・・丁寧にする・逆境を善処する。

地域社会では・・・出会えたことに感謝する。

「と」 … 「尊く思いあう気持ち」

目的：生命の大切さを感じることができる。

実践方法：

家庭では…生まれてきた喜びを見出す。

地域社会では…自然環境を大切にする。

「う」 … 「敬いあう気持ち」

目的：相手のために何かができる。

実践方法：

家庭では…親・先祖などの目上の存在への礼儀、礼の想いを持つ。

地域社会では…周囲の方々への心配りをする。

「ありがとう」運動とは、一時的な運動ではなく、家族、会社、地域に継続して「感謝を表現する」ことに価値があります。みなさんの家庭、地域全体、更には国中が「ありがとう」運動を実践する効果を考えると、日本の未来が笑顔溢れる社会へと変化していくことを確信しています。

脱少子化へ向き合う地域社会の展望

社会全体が一体となり少子化へ取り組む対策

子どもは社会の宝として社会全体で育てるべきであり、また子育ては楽しく、人生を素晴らしいものにする魅力的なことであると地域市民が意識し、家族の絆、そして地域の絆をより深め、笑顔が溢れる地域社会の展開を市民一人ひとりが創造する考え方の変革を目指します。

そして地域に住む市民一人ひとりが、未来の子どもたちが安心して継承できる環境が大切なことだと理解する必要があります。

市民意識の変革

もし今出生率が人口置換水準まで回復したとしても、分母となる女性の人数が減少している以上、年間の出生数は、約30年間は減少し続け、人口も減少していくのです。ですから、成果が現れるのは少なくとも30年後以上であり、それまでに起こりうる問題の解決策は別に考えていかなければならないのです。

だからこそ地域市民がその少子化情報を共有し、少子化に向き合い、地域社会が全体で取り組まなければ少子化の解決にならないと「意識の変革」を促して、今からできる対策を実行しなければなりません。

「ありがとう」運動の実践

その具体的な手法とは、「ありがとう」運動です。まず一番身近な家族に愛情と感謝を込めて展開し、そして地域社会でも行動することが必要です

「ありがとう」運動とは、対象は限定されておらず、全ての地域市民を対象とするもので、少子化対策委員会が提案する「地域社会が一体となり子育てを支援する」ための第一歩となる運動です。それは、無関心な人間関係が目立つ現在の社会環境から、隣人への感謝を表現し市民一人ひとりが「意識の変革」を促すことで地域の子どもは地域の宝として認識し、家族のコミュニケーションから地域へと発展することが重要です。

「ありがとう」という言葉から始めましょう。

